

ほっとメール



組織部



2016年7月28日

第325号

地域のすみずみまで、医療生協のわをひろげよう

荷見事務長の
ご挨拶



関師長の講義

7月13日(水)に衣笠診療所で「認知症サポーター養成講座」が開かれました。今回の講座参加者は21名で、主に職員が出席していました。その中には、7月に入職された新職員のかたも！新しい職場には慣れましたでしょうか？一緒に楽しく、頑張っていきましょう！

関師長による認知症についての講義が始まると、皆さん、真剣な様子で聞き入っていました。

後半は在宅福祉センターのケアワーカー一職員の中村さん・八巻さんの講義です。

皆さん
お話に聞き入っています。



下写真は、認知症の方の気持ちを理解しましょうという主旨で、折り鶴をつくりました。まずは、担当者選出です。折り鶴をつくる人。つくる人をそばで急かす人(←重要)が選出

されました。

鶴を作る人は何重にも軍手をつけます。この時点で、手先を細かく使うことはほとんど難しいように見受けられます。そのそばで、「早く早く早く！鶴折って早く早く～！」と急かす役の人。(お子さんにおうちで「早く〇〇しなさい」と忙しいであろう職員に大役？が任されていました。業務と家庭、大変ですよ。頑張りましょう！)

急かされると平常心が揺らぎますよね。急かされる中で、手先が思うようにいかない不自由な状態での作業、見ている側にも大変さがとても伝わりました。折り鶴を作るのを例とした疑似体験ですが、認知症患者のかたは、すべての行動においてこういった辛さと日々向き合っているのだらうと考えた講義でした。笑いもある、とても分かりやすい講座でした。とても良かったです。業務で多忙のこととは思いますが、定期的を開催していただけたらと思った講座でした。

認知症サポーター養成講座 衣笠診療所

